

第3節 東海環状都市圏・環伊勢湾広域交流圏などの形成による新たな交流の拡大

1. 目指すべき方向の視点

(1)東海環状都市圏形成の必要性

中部地方には、名古屋市を中心とした大都市圏が形成されていますが、東京・大阪の2大都市圏と比べると拠点都市が分散した地域構造であることが特徴です。しかし、通勤・通学や買い物、業務や産業取引などが名古屋市に集中した状態で今日に至っているのも実状です。従って、交通ネットワークは名古屋市を中心とした放射状になっており、名古屋市の外縁部にある都市間の交流は、環状道路の整備の遅れも影響し、名古屋市を介した交流を余儀なくされています。この結果、名古屋市には、東京・大阪等を結ぶ広域交流と、中部地域内の交流が重なり合って集中している状況となっています。さらに、3大都市圏の中で名古屋圏の自動車の依存度が極めて高いことにより、名古屋市内の旅行速度の低下、渋滞ポイントの増加、沿道環境の悪化を招いています。

現在整備が進められている東海環状自動車道は、我が国初の大都市環状道路です。これを活用すれば、名古屋市外縁部の諸都市が直接交流することが可能となり、これらの諸都市が有する資源がより活性化されて自律的な都市圏が重層的に形成されるとともに、名古屋市における過度な交通集中も少なくなることが期待されます。

(2)環伊勢湾広域交流圏形成の必要性

中部に展開する拠点都市は、伊勢湾を取り囲むようにして立地しています。これらの都市が相互の資源を活用しやすくすることは、各拠点都市の自律性を高める上で重要です。また、中部地方の拠点的な物流インフラである港湾や中部国際空港が、各都市にとって使いやすい状況をつくり出していくことも、中部が発展していく上で極めて重要です。しかし、拠点都市は伊勢湾を取り囲むように立地していることから主要な幹線に依存した交通行動となっているため、沿岸地域の交通が過密になっているのが実状です。

このため、伊勢湾を取り囲む拠点都市間の交流・連携をよりスムーズにするとともに、伊勢湾岸に立地する空港・港湾と拠点都市とのアクセスを高めていくことが重要です。そうすることで、環伊勢湾に自律性の高い都市圏が重層的に形成され、より魅力的な広域交流圏が形成されていくことが期待されます。

2. わたしたちの目指す地域像

・環状都市間の連携と交流による活力あふれる地域

【地域の声】

- ・高速交通網の整備は、生活面、産業面から非常に大事であり、人口 50 万人程度を一つの規模とする圏域単位として圏域間相互のアクセス向上を。(まんなか懇談会)
- ・分散型の地域構造に対応する分散型の基盤整備を。(まんなか懇談会)
- ・減少基調下の社会情勢においては、コンパクトな拠点形成と拠点間のインフラ整備が重要。(まんなか懇談会)

3. 地域像を実現するための具体的な目標

目標1 環伊勢湾および東海環状都市間のアクセス時間を短縮します

(目標)

名古屋都市圏の外周部をリング状につなぐ環状道路や環状鉄道の整備・充実、高速化などを通して交通ネットワークの強化を図り、環伊勢湾および東海環状都市間のアクセス時間を様々なモードで短縮していきます。

【地域の声】

- ・ 岐阜と多治見は非常に行きづらい。名古屋を通らなくても県内交流がしやすいことが必要。(ビジョン討論会岐阜会場)
- ・ 生活面・産業面からも高速交通網、特に高速環状網の着実な整備を。(まんなか懇談会)
- ・ 都市と産業・物流拠点を繋ぐネットワークの強化を。(市町村長ヒアリング)

【具体的な施策および主要事業例】

- ・ 環状都市間を結ぶネットワークの強化を図ります。(東海環状自動車道 等)
- ・ 環状都市圏内の公共交通ネットワークの強化を図ります。
- ・ 環状道路に接続する幹線道路の整備によりネットワークの強化を図ります。

目標2 環伊勢湾および東海環状都市間の経済・社会活動の交流拡大を図ります

(目標)

各拠点都市間の経済活動、文化活動、観光など、多様な分野における交流活動の活性化を図る仕組みづくりを図ります。

【地域の声】

- ・ ビジネスで名古屋を来訪した人が岐阜、三重、静岡の観光地を回りやすいような交通アクセスの強化と戦略を図るべき。(まんなか懇談会)
- ・ バランスの取れた広域交流圏を形成し都市と農村等の交流の活発化を。(ビジョン討論会高山会場)

【具体的な施策および主要事業例】

- ・ 拠点都市間で公共施設が相互利用できるような都市間の連携を図るシステムを構築します。
- ・ 経済、文化活動の活性化を図るためのしくみづくりを推進します。
- ・ 東海環状自動車道沿線の交流拠点施設をネットワーク化し、交流人口の拡大など地域の活性化を推進します。(美濃ミュージアム街道構想の推進 等)
- ・ 観光交流を拡大するため、観光資源の発掘や広域的な観光モデルルートの形成などの取り組みを行います。

【当面重点的に取り組むプロジェクト】

東海環状ものづくり回廊プロジェクト

(目標 1、2 の達成を目指して)

名古屋東部丘陵・東濃・鈴鹿山麓などに展開する優れた研究開発機能を、東海環状自動車道によって交通で結びつけることにより、産業の育成、感性豊かな新技術・新産業の育成を図ります。

また、古くから現代にかけて中部に培われてきた匠の技やモノづくりのブランド化を図り、中部を代表する観光ルートとしても情報発信を行います。

<アウトカム指標(参考例)>

- ・ 企業立地数の増加
- ・ 複数自治体の連携した取り組みの増加
- ・ 渋滞損失時間・損失金額¹の低減 等

¹ 渋滞損失時間・損失金額：渋滞によって余分にかかった時間を渋滞損失時間といい、それを金額に換算したものを渋滞損失金額という。